

北海道建築士

HOKKAIDO KENCHIKUSHI 2014.11.No207

11月号

目次

応急危険度判定机上訓練開催！…1
技術ノート……………2
トピックス……………4
実行委員会報告……………5 [会員増強特別・ヘリテージマネージャー特別]
青年・女性の窓……………6 [青年委員会]
支部だより……………7 [美幌・岩内・後志]
Information……………8

URL <http://www.h-ab.com/>

応急危険度判定机上訓練開催！

被災地応急支援特別委員会

帯広市開催報告

委員 美濃 輝之 (十勝支部)

9月6日帯広市ソネビルにおいて開催。

参加人数は、繁忙期ということもあり19人と少なめでしたが、皆さん真剣な表情で応急危険度判定に取り組んでいました。



事例は旭川近郊の物件で、RC造と木造建物です。RC造の場合、柱の破損状況等を目視で判定するのですが、判定作業に要する時間が30分以上掛かるため、どのように効率良く短縮して行くかが今後の課題となりそうです。訓練に参加することにより、慣れる度合いも深まって行きますので、今後各地で開催予定の机上訓練に建築士会会員の皆様方にも多数ご参加いただきたいと思います。牛田委員長、金谷委員、釜土委員、遠路よりご尽力くださいましてありがとうございました。参加者の皆様にも感謝申し上げます。



恵庭市開催報告

副委員長 池田 浩司 (札幌支部)



6月14日恵庭市職業訓練センターにおいて開催。恵庭支部会員ら約30名が参加し、有事に円滑な応急危険度判定ができるよう知識を深めました。

恵庭支部は平成21年2月20日に恵庭支部と恵庭市とにおいて「災害時における家屋等の応急危険度判定業務の協力に関する協定」を締結しておりましたが、これまで応急危険度判定に係る訓練が行われていなかったため水間支部長より北海道建築士会へ訓練の協議がなされ当被災地応急支援特別委員会が協力し、今回の訓練実施となりました。

はじめに、牛田委員長より東日本大震災時に実施した応急危険度判定の反省討論会について映像をとおして紹介され、ガイダンスとして私より応急危険度判定の手順やポイントについてRCと木造の事例を説明しました。その後参加者たちは4人一組に分かれ机上訓練を実施。被害状況を想定した写真や図面などから危険箇所を診断、調査票を使って危険度の総合判定が進められました。途中からは机上訓練とはいえ、支部長の提案により実践しながらに立席にて訓練を進めることとなりました。判定結果について小町副委員長より説明があり、判定認識が深められ、実効性の向上に繋がったと思います。

住宅の屋根の雪対策

— 建物の雪害トラブルを防ぐために注意すべきこと —

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 建築研究本部
 北方建築総合研究所 居住科学部 居住科学グループ 主査
高倉 政寛

1. 戸建住宅における雪処理の課題

北海道は毎年、数ヶ月間の積雪期間があり、高齢者にとっては、敷地内での雪処理が大きな負担となっている。当研究所の調査結果によれば¹⁾、高齢者が転居するきっかけには、買い物や通院等の日常的利便性だけではなく、「除雪の負担」が関わっている。

すなわち、省エネや強い構造に加え、雪処理に苦勞が少ない住宅を提案することは、住まい手にとって必要不可欠なこととなる。ここでは、戸建住宅で課題となる雪処理に着目し、住宅設計の要点について解説する。

2. 落雪屋根

北海道の戸建住宅は、全体の約50%が勾配屋根であり、また、3～5寸の屋根勾配が主流となる東北や北陸地方に対して、6寸以上の急勾配の屋根が採用される例が多い。急勾配の屋根は、落雪を期待して計画されることが多いが、隣地に雪が侵入しないよう留意して設計する必要がある。

写真1は、北海道の住宅地内で撮影した屋根雪の軒下堆積状況である。①、②のように、4寸勾配でも10寸勾配と同程度の落雪飛距離になる場合がある。また、近年普及している「②横葺」は、従前から普及している「③立平葺」よりも飛距離が大きくなりやすい。このように住宅地内の落雪飛距離は、勾配に加えて葺工法、気象特性によっても大きく増減する。建築計画時には、隣地とのトラブルが発生しないよう、飛距離を適正に予測する必要がある。

次に、実測で得た落雪飛距離（10寸勾配、横葺）と落雪飛距離の算定結果を比較すると図1になる。図中の式1)は、一般に動摩擦係数（ μk ）を0.1に設定し、建築指導行政で運用されることが多い。図のように、 $\mu k=0.1$ とすると、実測された軒下堆雪の頂点とほぼ一致するような落雪の軌跡を表現でき、到達距離を予測することが可能である。

勾配を持つ落雪屋根は、雨仕舞が合理的で多様な意匠性を持つ屋根形状である。しかし、隣接地への屋根雪の侵入等のトラブルがきっかけで落雪屋根からM形屋根やフラット屋根に改修を行うこととなれば、建築主に大きな費用負担を強いることになる。屋根形状の採用にあたっては、無理のない配置計画や屋根勾配、葺工法に十分な検討が必要である。

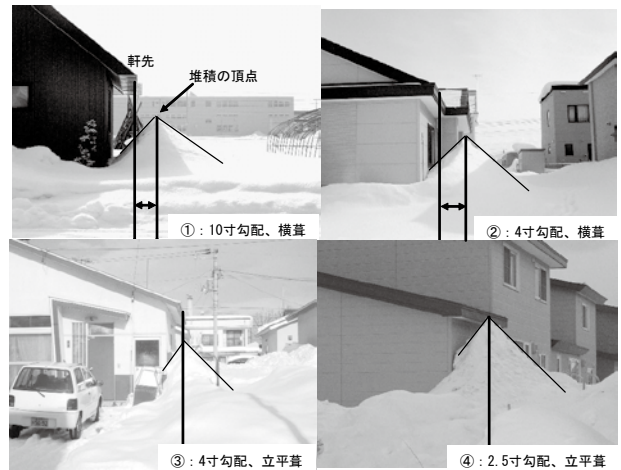


写真1 住宅地内の一般的な軒下堆雪状況

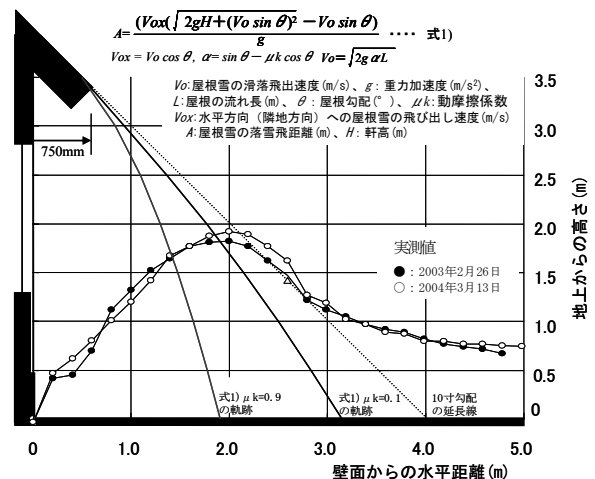


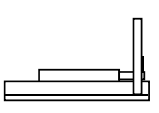

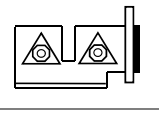

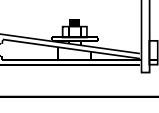

図1 落雪飛距離の算定式と実際の軒下堆積状況

図1に示す落雪飛距離の算定式等を活用した表計算ソフトは、北方建築総合研究所のホームページで公開しているので活用されたい。

3. 勾配屋根での雪止め手法

勾配屋根の落雪防止措置の一つとして用いられる雪止め金具は、表1のように、金具の種類によって設置強度が異なる。道内市町村の建築指導要綱等で運用されている雪止め金具の設置個数は、一般に広く流通している金具（強度: 1.2kN/個前後）を想定し、経年劣化を考慮して0.6kN/個を設計値としている。しかし、金具の種類によっては、十分に設置強度が得られないものもあるので、事前に設置強度を確認するなど、十分な配慮が必要である。

表1 一般的な雪止め金具の種類と破損・脱落事故の状況

金具CODE	金具の形状	取り付け方法	水平加力後の金具	破損・脱落事故の状況	設置強度の限界
T1		はぜ掛け部分に金具をはめ込んで、木槌で叩いて固定する。金具に水平荷重が加わるほど、ハゼへの金具締め付け力が強くなる形状となっている。		荷重増加に伴い、はぜから浮き上がり、脱落。浮き上がりに伴い、屋根葺材を破損。	0.63kN
T2		はぜ掛け部分に金具をはめ込んで、ボルト2本(8φ)で締め付けて固定する。締め付けトルクは、既往の研究を参考に、1.75kgf・mとした ⁴⁾ 。		荷重増加に伴い、立ちはぜ上を、水平滑動する。滑動時に屋根葺材の塗装を損傷。	1.22kN
Y1		横継ぎ手部分に金具をはめ込んで、ボルト2本(8φ)で締め付けて固定する。締め付けトルクは、1.75kgf・mとした。		荷重増加に伴い、屋根葺材表面を削りながら移動後、脱落。	1.24kN

近年では、雪止め金具以外にも写真2のような砂付の粗面屋根葺材や、写真3のように塗装鋼板の立ちはぜを利用した雪止めなど、多様な雪止め手法が普及し始めている。施工する際には、落雪事故の発生を防止するために、メーカーが推奨する方法や適用勾配、大雪時の対処方法などを建築主・設計者の双方で確認することが肝要である。

なお、勾配屋根に雪止め措置をする際には、雪止めの効果を過信せず5寸勾配以下にすることが望ましい。詳しくは、当研究所が監修したパンフレット「戸建て住宅の屋根の雪処理計画」を参照されたい。

4. M形屋根、フラット屋根

都市部の狭小宅地では、敷地内での堆雪スペースの確保が難しいため、M形やフラット屋根を採用する例も多い。これらの屋根は、40年以上前から普及しているが、普及当初、すがもれや氷柱に係る被害が多かった経緯があり、「住宅瑕疵担保責任保険」では、一定の基準を満たす工法を除いて保証対象外としているのが現状である。図2には、保証対象のM形屋根を例示しているが、フラット屋根においても施工の注意点は同一である。具体的には、室内の暖房の熱が小屋裏に流入しないよう、天井面に断熱・気密措置を行うこと、また、小屋裏換気を促進して、小屋裏内に暖気が滞留しないようにし、屋根雪を融かさないようにする必要がある。詳細は、北方型住宅技術解説書や、住宅保証機構の性能保証住宅設計・施工基準に記載があるので参考にされたい。

5. 堆雪スペースの必要面積

玄関や駐車スペースは、降雪毎に除雪作業が必要となる空間であり、冬季の居住の快適性に大きな影響を及ぼす。除雪した雪を堆積しておくために必要な土地面積は、図3中の式で概算され、札幌の場合、駐車場1台分の除雪に対して、概ね等しい堆積スペースが必要となる。除雪面積と堆積スペースを少なくする方法には、カーポートや融雪槽、ロードヒー

ティングの設置などが考えられる。何れの方法も適正に運転すれば、敷地内の雪処理に効果的ではあるが、注意が必要なのは、雪処理に要するランニングコストである。提案の際には、工事費だけではなく、設置後の運用に係る説明が必要である。



写真2 粗面の屋根葺材の例



写真3 換気や断熱気密が不足し氷柱が発生している例

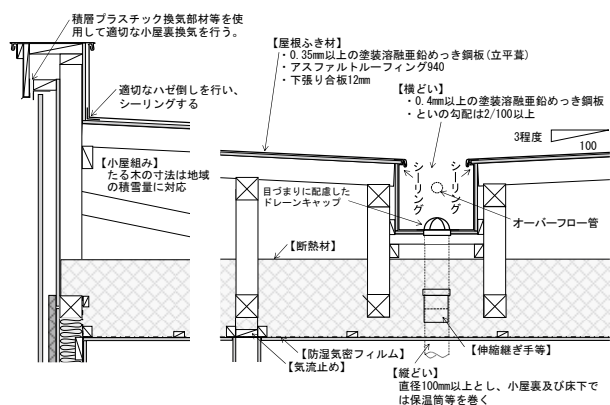


図2 標準的なM形屋根の断面構成

■ 必要堆積スペース面積 A m²の概算

$$A(\text{m}^2) = \text{累積降雪深} \times \text{除雪面積} \times 0.25 \times H$$

H は、積上高さ(≒1.5m)

図3 除雪の必要堆積スペースの算定式

【参考文献】

- 1) 北方建築総合研究所：道内自治体における住替え推進方策に関する調査研究，2014.3

表彰関係

10月24日開催の第57回建築士会全国大会（ふくしま大会）、また、9月27日開催の第39回全道大会（旭川大会）の式典において、今年の日建連会長表彰者、北海道建築士会会長表彰者の表彰式がそれぞれ執り行われ、賞状が授与されました。

永年にわたり、本会の役員として、会の発展に功績して下さった表彰者の皆様をご紹介します。

【(公社)日本建築士会連合会会長表彰者】

(敬称略)

支部名	氏名	支部名	氏名	支部名	氏名
札幌	高野 壽世	札幌	野村 篤	札幌	河村 和義
恵庭	北澤 征夫	十勝	林 紀雄		

【(一社)北海道建築士会会長表彰者】

(敬称略)

支部名	氏名	支部名	氏名	支部名	氏名
札幌	首藤 一弘	小樽	廣谷 昭	釧路	眞鍋 雅律
札幌	鈴木 信一	小樽	白川 克己	根室	渡辺 徹
札幌	新潟 健一	室蘭	成澤 久雄	中標津	音川 浩雅
札幌	本吉 定	室蘭	川田 寿之	網走	山本 利彦
札幌	松崎 健児	苫小牧	納口専納助	北見	桜井 博之
札幌	田中 繁喜	北空知	妻神 卓八	北見	松本 司
千歳	黒坂 順一	旭川	本間 宏明	美幌	平井 辰男
恵庭	成田 茂利	旭川	中野 利也	紋別	高野 昭一
函館	川村 真人	旭川	岸田 精一	宗谷	片山 徹也
函館	山上 和茂	旭川	石関 康弘	宗谷	山本富士雄
函館	原田 徹	十勝	鈴木 啓治		
檜山	田畑 昌伸	十勝	新沼 哲幸		

受賞おめでとうございます。

北海道庁本庁舎耐震改修工事見学会に参加して

事業委員会副委員長 内海 純一

札幌支部のEmail情報で見学会の案内をいただき、3回開催される真ん中の日程で申し込みました。運良く希望通りの日程で申し込み出来ましたが、当日午後丁度見学会が始まるタイミングで振り出したどしゃ降りの雨の中受け入れていただいた竹中工務店の所長・副所長のご配慮で、雨を避けてのコースへ変更し見学させていただきました。

最初に現場事務所で全体工期が実施設計や前工事を含めると2012年12月26日から2016年1月31日、そのうち本工事が約2年とのこと、免震ゴムの位置は地下2階の柱頭・柱脚と吹抜け部分は地下1階柱頭の3種類あり、その位置によってドライエリアの深さや巾も配慮されていること、仮支柱の設置・ジャッキアップからジャッキダウン撤去まで26日間掛かる工程等をお聞きしました。ただ、降雨のため、外部ドライエリア周辺は今回見ることが出来なかったのは残念でした。上部階では道庁職員の方が執務



をされていて、更には耐震改修を行う地下スペースにある受水槽や電気室などをSTEP 1～6の段階を経て移設整理し、最終的には設備機器のコンパクト

ト化などで出来た空間に防災拠点となるスペースを創出するという改修工事ならではの大変さ複雑さも窺えました。概要説明後、道庁地下2階へ移動しプレ



ロード工法で施工中の柱頭の前で免震工事の手順説明後、免新装置下部へのモルタル充填テストサンプルや装置取り付け前の躯体など見せていただきながら、複雑多種多様な配管の中を移動して現場事務所に戻りました。複雑に入組んだ配管は3Dスキャンデータ化して地震時の躯体水平変位範囲内の配管を移設する際のデータとして利用され、更には数十年後の免震ゴム取替え時の搬出入経路の確認に使われている動画も見せていただきました。日頃なかなか見ることが出来ない工事の、複雑な工程で管理されている現地を見て勉強させていただきました。地上空間はいつもと変わらない人の流れですが、その地下で多くの作業が今も行われています。

今回の見学会で解説・案内をしていただきました、(株)竹中工務店 鹿野所長、西條副所長ありがとうございました。

より良き老舗を目指して



会員増強特別委員会

副会長・委員 **鈴木 基伸** (札幌支部)

もう随分と昔の話題になりますが、冗談とも本音ともつかないこんな笑い話がありました。

Q：あなたの趣味は何？

A：建築士会です！

刻々と変化する経済・社会情勢に翻弄されつつ生活の糧を得る職業人としての建築士にとっては、もちろんこれは冗談です。仕事の合間と時間の隙間を縫いながら仕事で疲れた体を動かし大会や行事などの準備にかけずり回る役目を背負った会員にとっては(捨てぜりふ的に)本音でした。多分、それはある意味達成感だったのでしょうか。

会員数8千、9千人いやもうすぐ1万人などと冗談と大風呂敷の時代はとうに過ぎ去りました。

しかし乍ら、その昔も4千数百名の現在も、本会の最大目標の一つは会員の増強でした。

私たちのこの委員会は、会長をトップに各実行委員会委員長を委員とし、会員数一割アップを目標に掲げ、あらゆる機会を通じ会員増の方策を考えるのが唯一の使命となっています。

道内4ブロック毎に支部長を集めた会合(ブロック会)を通じての技術研修会の呼びかけ、リーフレットの配置・配布、行政担当部局へのPRなどの方策も常々講じているところでもあります。

人口減少が議論されている昨今、会員減少の歯止めにも四苦八苦の地域も数多くあります。

今更乍ら、最近つくづく感じるものが一つあって、それはセミナー・見学会や催し事に参加する会員たちが皆楽しそうで、また真剣に取り組む姿を多く見かけることです。このような事が支部間で連携されたり、ブロック内で共有されることも本会のメリットに繋がるかもしれません。

また、ヘリテージやまちづくりの新しい試みなどを建築を志す学生たちや市民に大きくアピールすることも肝心なことでしょう。

世間では、企業が60期も決算を重ねると老舗の企業といわれます。

もちろん私達の団体は企業ではありませんが、夢を持ち、志を同じくする建築士を一人でも多く会員に迎え入れ、一線を退いた会員にも居心地のよい環境と情報を提供できる老舗でありたいと願っています。

会員の皆様のアイデアや情報を事務局にお寄せ頂ければ誠に幸いです。

北海道ヘリテージ専門職に38名が挑戦 「頑張れ1期生! 続け2期生! 地域のために」



ヘリテージマネージャー特別委員会

委員長 **山内 一男** (函館支部)

—講座がはじまった—

平成26年度、北海道ヘリテージ・マネジメント専門職育成講座は7月21日から開始された。講座参加の応募期間が短く、ヘリテージマネージャー20名、ヘリテージコーディネーター20名の応募者が集まるか心配していた。開講当日38名の参加者が会場に集まり、オリエンテーション、文化財保護法概説、ヘリテージマネージャー概論からスタートした。

講義日は月初めの土曜・日曜日を原則としている。平日は会社の仕事に励まれ、月一度の8時間の講義を繰り返す。合計60時間の講義はハードな技術者養成講座となった。地域資産の活用技術者を育成する新しい挑戦に、受講生も講師も取組みに熱が入る姿に頑張りと感じた。

—後半戦の講座・実習がはじまる—

9月でようやく半分、折り返しを迎えた。

講義から実習へと実践のカリキュラムが多くなっていく。教室から現場、修復建物現地での演習が始まる。古い建物の実測実習訓練、工法・技術を直に目にし、修理技術や活用手法を講師から学ぶ予定である。

建築士が地域の古い建物を活用する為、建物調査を抜きにして計画は始まらない。ヘリテージマネージャーの技術習得の大事な機会、真剣さと注意深さでスキルを磨きたいと考えている。

—課題—

札幌を拠点に講義が開催され、地方からの受講は時間と費用が掛かり、地方の建築士会員の参加が大変との声がある。地方の会員が参加しやすい方法は、地方での育成講座開催であることは承知している。遠方からの講師の対応はどうするかなど課題はあるが、実習場所で地方に行くことで講義が可能であれば開催を検討したいと思っている。

又、夏の札幌は土曜日の宿泊が大変。催し物が数多く参加者や観光客の予約でホテルは満室。安い宿泊が出来ない状況も生じた。

広い北海道、距離の解決の妙案は、地域にヘリテージマネージャーが生まれ育つこと。そのマネージャーが地域で技術者を育てる方法だと考えている。

頑張れ1期生! 続け2期生! 地域のために

青年委員会

青年サミット旭川大会を終えて 「あさひかわの今」

青年委員会委員

大浦 昌浩 (宗谷支部)

9月26日 旭川市市民活動交流センター CoCoDeの会場で

『あさひかわの今～今の旭川を感じ、みらいになにが必要か～』

をテーマに全道大会（旭川大会）青年サミットが開催されました。大会テーマの『都心 ルネッサンス』から青年サミットでは、旭川駅前前の平和通買物公園地区をはじめ、都心周辺の古き商店街や自然豊かな住宅街など、4地区に分かれて、まちあるきをしてきました。

私はその中の銀座通商店街・大成地区を探索することになり、旧松岡邸から出発し、銀座通商店街に向かいました。



旧松岡邸 大正14年建造

旧松岡邸は建造から約90年経つ建物で片方が和洋風、残りが和風と、混合した建物で、当時だと木造でこの大きさを建てるのは、施主の財力を想像してしまう建物と感じました。



旧岡田邸 昭和8年建造

続いて『旧岡田邸』写真は門だけですが、北の誉酒蔵のオーナー

宅だったそうです。有名なお酒です。今は『おかだ紅雪邸』の店名で幌加内産のそば屋として使われています。ちょっと高級なそば屋で値段を聞いてビックリしました。あれ？ケタが違うって感じですね。建物は和風を取り入れた洋館建物で（一財）旧岡田邸200年財団が『動態保存』という考えでこの建物を再生したそうです。



銀座通商店街

最後に歩いた場所『銀座通商店街』。昭和の風景がそのままに感じられる建物が建ち並んでおり、戦後の動乱の時には闇市が立ち並んだそうで、古くから『市民の台所』として今でも親しまれている商店街です。時代の流れか建物が老朽化し、住民の高齢化、郊外大型店の進出で賑わいが薄く感じます。商店街には昔ながらの市場が3か所あり、中にはシャッターが下りた空き店舗が目立つ、ちょっと寂しい市場もありました。

街あるきのゴール場所に商店街の終点である『弁天神社』があり



銀座通商店街 弁天神社

銀座通商店街のシンボルとして崇められています。鳥居の手前には『もどり橋』があり、ここを渡って神社にお参りし、橋を戻ると願いが叶うそうですよ。

サミット会場に戻り、4地区に行った人たちが各テーブルに散らばり、街あるきでの『良いところ、悪いところ、今の旭川には何が必要なのか』を、各グループで話し合い、発表しました。



青年サミット風景

発表では、「交通網の整備（地下鉄、無料駐車券、市電）」、「木造タワー建築」、「癒しの空間づくり」、「特産物を駅前に集約する」などの他、中には「屋形船で川のまちをアピールする」などユニークな発想もでていました。みなさん知っていましたか？旭川市は『川のまち』とキャッチコピーがつけられているのを。おもえば旭川中心まで行くのに必ず通る『橋』がたくさんあり、これだけ橋が多い街もめずらしいのではないのでしょうか。

旭川には施設が充実する中、「何が必要なのか」という難しいテーマと想ったのですが、さすが青年の発想力と思わせるものばかりの発表でした。

旭川中心部の建物の老朽化が目立ち、これから再生と維持修繕が必要となるかと思えます。青年の発想が都心の賑わいを取り戻す糸口となればと考えます。

各市町村地域でも商店街・アーケード街は集客に苦勞している中、街あるきをした銀座通商店街は若い起業者への取り組み、商店街全体での催事、空き地利用など、商店主達がなんとかしようと思ちづくりへの取り組みを行っている。ぜひ成功例として各地にアピールできる商店街となっていたきたいものです。

地域の活性を願って

美幌支部

事務局員

山岸百合子



各支部の皆さん日頃の活動大変お疲れさまです。

今年度より事務局員として主に会計を担当することになり、金銭の管理は非常に気を遣うばかりで責任重大と感じています。新会計システムが導入され、月単位での伝票報告なので、決算時期には焦ることなく整理をすることができそうです。美幌支部は、現在のところ正会員が55名と準会員が2名です。大きな活動はしていませんが、平成26年9月から平成28年3月まで『びほろ』みらいまちづくり会議に当会員1名が委託され、つい先日第1回目会議に出席したところです。今後のびほろのまちづくりに建築部門から意見を述べ、地域の活性に貢献できればと願っています。



活動報告があまり無いので余談ですが、上記の写真は平成26年6月に、美幌町で作成したポスターが全北海道広告協会賞の奨励賞を受賞したものです。

美のれんと称しています。こののれんは、みどりの村森林公園のウォーキングコースの途中にカラマツの木々に掲げられています。大変美しい【美】の書体だと思います。インパクト大ですので近くに寄られた際には一度見てみるのはいかがでしょうか？

支部の近況のあれこれ

岩内支部

支部長

原 勉



「支部の近況を報告して下さい」との寄稿依頼があり、呑気に構えていたら、「もう締めきりです」との連絡。急いで支部の近況を書いてみました。

平成元年に岩内支部としてスタートしてもう四半世紀が経っています。会員70余名で始めましたが現在、会員29名で当初の2/5となっていました。新入会員を増やしたいところですが、資格を取得する若い世代の方が、とんとおりません。

支部の活動主体は、青年部に担って貰っています。ただし、青年部の年齢制限が無いので、全員参加となっているのが現状です。もちろん私も、参加人員の対象です。

例年、行っている「バードハウスDIY」は、今年も行われ盛況のようでした。ご苦労様でした。私は、そのあとの反省会からの参加となり、大変申し訳なく思っています。

もう一つ、12月にボーリング大会もあるのですが、昨年中止になりましたが、今年は、ぜひ実行してほしいものです。

全道大会旭川大会への参加要請をしたのですけれど、いつもの3人での参加となりました。なかなか都合がつかなかったようです。来年は、一人でも多く参加したく思います。

何かとりとめのない近況報告となりましたが、もう今年も残り僅かとなり、忙しい時期となってきました。1年経つのは、早いものです。

あ、来年度の予算書作らないと忙しいな～。

しりべし空き家BANK

後志支部

副支部長

榎 政信



「しりべし空き家BANK」をご存じでしょうか。

後志総合振興局を事務局として後志管内の17の市町村と協議会を構成し、民間団体である宅建協会後志支部と当支部が実行部隊として企画・運営を担い後志地域の空き家の活用促進を行っています。単一の市町村で空き家バンクを運営している例をよく見ますが、広域に連携して行っている事例は珍しいようです。

平成18年に羊蹄山麓広域景観づくり協議会より「羊蹄山麓広域景観づくり指針」が策定され、協議会の検討部会に参加していた当支部が、平成22年に振興局より廃屋調査並びに空き家活用の検討の委託を受けたのが始まりでした。平成23年から空き家BANK構築の委託を受け、社会実験を1年半行い、昨年度から自主運営に切り替えて継続しています。

後志地域の空き家情報をWEB上に発信し、利用者の仲介を行うのですが、建物の調査は建築士が、不動産の仲介は宅建事業者が専門家として関わっています。3年間で売却が69%、賃貸が100%の成約率です。不動産事業者のいない町村にも対応しています。

今後は、空き家のリフォームやリノベーションのメニューを増やして建築士の役割強化に向けて検討中です。



道士会の動き

道本部の主な会議報告

◆道東ブロック会（阿寒町）

〈開催日〉10月10日（金）

〈議案〉

- 1) 会員増強について
- 2) 講習会の共同開催について
- 3) 第40回全道大会（紋別大会について）

◆道北ブロック会（留萌市）

〈開催日〉10月21日（火）

〈議案〉

- 1) 会員増強について
- 2) 講習会の共同開催について

道本部の主な行事予定（11月）

- 7日 第5回地域貢献活動センター委員会
- 7日 道央ブロック会（札幌市）
- 7日 第3回事業委員会
- 8日 第4回情報委員会
- 13日 第三期建築士定期講習（室蘭市）
- 15日 第2回青年委員会 WEB会議
- 15日 第3回総務委員会
- 19日 第三期建築士定期講習（旭川市・札幌市）
- 28日 道南ブロック会（室蘭市）

関係機関等会議出席状況（11月）

- 18日 JSCA 25周年懇親会（札幌） 高野会長出席
- 19日 建設系CPD協議会運営会議（東京） 高野会長出席

CPD認定プログラム(10月認定)

- ◆ 「建築士・建築技術者のための
スキルアップセミナー」第2回
- 〈日程及び会場〉11月22日（土） 14：00～16：30
北海道後志総合振興局（倶知安町）
- 〈単位数〉 3単位
- 〈問合せ先〉（一社）北海道建築士会後志支部
TEL 0136-22-0138

編集後記

編集に携わってから早9か月が過ぎました。毎月10日頃に初校が上り校正、20日頃に二校というハードなスケジュールですが、各委員会のタイムリーな活動は将来の成果が楽しみです。各支部からの活動は広い北海道を身近なものに感じさせてくれます。皆さんにもっと会誌を読んでもらうためには…外に向かったのアピールも必要では…などと思いは巡ります。

雪の便りもそろそろですね。ご自愛ください。

情報委員会 早川 陽子



会誌「北海道建築士」 CPD単位登録のご案内

CPD自習型認定研修の設問は、下記の手順でCPD単位登録を行ってください。

- ①CPD情報システムにログインをします。
- ②士会用メニューより「認定教材研修申請」を押します。
- ③CPD番号、氏名を確認し、必要欄を入力します。
- ④プルダウンメニューから「北海道建築士」を選択します。
- ⑤設問への解答を選択します。
- ⑥入力後、「次へ」を押します。
- ⑦確認画面より「申請する」を押し、完了です。

注) 不正解の場合は登録できません。

CPD 自習型認定研修の設問

P2-P3 技術ノート
〈住宅の屋根の雪対策〉



北海道建築士 No.207

2014/11/ 1 単位：1

設問 住宅の雪処理について説明している次の記述のうち、不適切なものはどれか。

- a. 除雪した雪を堆雪しておくために必要な土地面積は、札幌の場合、駐車場1台分の除雪に対して、概ね等しい堆積スペースが必要となる。
- b. 勾配屋根に雪止め措置をする際には、雪止めの効果を過信せず8寸勾配以下にすることが望ましい。
- c. 塗装鋼板の横葺屋根は、従前から普及している立平葺よりも落雪飛距離が大きくなりやすいため、リフォームなどで屋根を葺替える際には注意が必要である。

※不正解の場合は、単位に登録できない場合があります。

各支部からのお知らせ

※問い合わせは各支部へお願いします。

〈函館支部〉 問合せ・申込 TEL 0138-27-6858
11月8日（土）「函館アリーナ」現場見学会

情報委員会委員長／神田 光英
副委員長／斎藤 勝哉・早川 陽子・森 勝利
委員／高松 徹・熊谷 智・柳山美保子
鈴木 雅人

北海道建築士 No.207号

印刷 平成26年10月／発行 平成26年11月

編集・発行 一般社団法人 北海道建築士会
〒060-0042 札幌市中央区大通西5丁目11番地
大五ビル
電話 (011) 251-6076番
URL <http://www.h-ab.com/>

印刷 株式会社 正文舎
〒003-0802 札幌市白石区菊水2条1丁目
電話 (011) 811-7151番